

第2回 防府市人権学習市民セミナー

日時：令和5年9月27日（水）
午後1時30分から午後3時まで
会場：防府市創業・交流センター 多目的ホール

【犯罪被害者と家族の問題】

演題：^{あゆみ}歩と生きる

講師：山口被害者支援センター 直接支援員

中谷 加代子 さん

いつ被害者にも加害者にもなるかわからない世の中です。毎日、自分も周りも大切にして、日々生きていきたいと思いました。

（参加者アンケートより）

市民セミナー講師中谷さんのお話より

1. 被害者家族の心について

もし皆さんが被害者遺族になってしまったら、時間が経つにつれ家族の心はどうなっていくと思いますか。心が少しずつ回復していくと思う方もいらっしゃるかもしれませんが。私は、はじめはどん底がずっと続いていました。いつの日か前を向いて生きて行こうという気持ちが表れても、また気持ちがドーンと落ちていく、この繰り返しでした。自分で勝手に落ち込んだり、季節や事件・家族に関係のある日が近づいてきたり、現場の近くを通ったり、特定の言葉がきっかけになって気持ちが沈むこともありました。



市民セミナー講師中谷さんのお話より

2. 被害者家族の周りの人たちについて

事件後、現場の刑事さんは、動機の解明につながるような捜査を一生懸命にしてくださいました。弁護士さんは、親身になって相談に乗ってくださいました。学校の先生も「歩さんを守れなくてすみませんでした」と誠実に対応してくださいました。私の周りの同僚は黙って待っていてくれました。これらのことが後々まで救いになりました。被害者家族には、今までどおりに普通に接してほしいと思います。友人は私を傷つけないように気遣ってくれていたようですが、私から見て自然に感じられたのがありがたかったです。たくさんの方が私たちに寄り添い、温かい気持ちで包んでいただきました。

市民セミナー講師中谷さんのお話より

3. 二次的被害について

皆さんは二次的被害という言葉をご存じですか。被害者や被害者家族が、犯罪による直接の被害以外に二次的に受ける被害です。被害者を取り巻く人からの心ない言動や誹謗中傷などで、偏見や思い込みも二次的被害の要因になります。私たちにも、中傷の手紙や電話がありました。歩のこと、報道に対応している私たち家族のこと。それでも、周りの方々の圧倒的な優しさ、温かさで何とか過ごしてきました。



市民セミナー講師中谷さんのお話より

4. 加害者について

命を償うことは、例え命でもできません。償う方法は加害者の人生の中、加害者がその後をどう生きていくかだと思います。加害者が「生きる」ことを真剣に考えてくれていたら、周りの人のことも大切に思ってくれていたら、事件は起きていなかったでしょう。命の教育がもっとされていたら、歩は今でも生きていたのかもしれない。

矯正施設でお話をすることがあります。対話した多くの受刑者は、「あのとき相談していたら…」と後悔していました。相談の一件一件が、たくさんの事件や事故を防いでいます。皆さんもストレスを溜めずに相談者になってもらえたらと思います。



市民セミナー参加者アンケートより

- **彼が生きることを真剣に考えていたら、相手のことを大切に考えていたらとおっしゃいました。「命」の教育の大切さを深く感じました。人が人を大切に作る、この基本的なことが広がることを願ってやみません。**
- **あの時相談していれば…。相談の1件1件が事件を防ぐ、本当にそうだなと思いました。よかれと思ってかけた言葉が傷つけてしまうということ、気をつけないければと思いました。**
- **被害者家族をとりまく問題（報道、二次的被害）に対する説明も深く、非常に考えさせられました。**

《感謝の言葉の部分は省略させて頂き、原文どおり掲載しています。》